

フランスにおける日本語教育の変遷と現状

— グルノーブル大学を中心に —

白井智子

(姫路獨協大学言語研究所)

I. はじめに

日本とフランスは、近年、政治、経済、文化などの様々な面において交流が活発に行なわれている。また、語学の面においても、両国の言葉を学習するものが増えてきた。特にフランスでの日本語学習者の増加は目をみはるものがある。フランスにおける日本語教育は、1863年にレオン・ド・ロニーによって始められた。それから約130年が経つが、残念なことにまだフランスでの日本語教育は確立できていない。

そこで、フランスにおける日本語教育の変遷を見ながら、93年度に筆者が教鞭をとったグルノーブル大学を中心にその現状と問題点を報告し、今後の課題を考察する。

II. フランスにおける日本語教育の変遷

1. フランスにおける日本語教育の始まりと第1次日本語ブーム

古くからフランス人は日本に憧れを抱き、数限られた日本の文物を追い求め、日本や日本語について僅かでも知識を得ようと努力してきた。しかし、日本は長い間鎖国政策をとってきたため、入手は極めて困難であった。1853年日本が鎖国を解き、少しずつ書物などの入手が可能になり、さらに1862年から2回にわたる徳川幕府の遣欧使節団の訪仏と、1862年と1878年に行なわれたパリ万国博覧会での日本展が、フランス人の日本への関心の高まりに拍車をかけた。

そのような日本ブームの中、1863年に「帝国図書館付属帝国東洋語専門学校」（後のINALCO）で、フランス初の日本語講座が開設され、独学で日本語を学び、遣欧使節団の通訳をしたレオン・ド・ロニーが、初の日本語教師となった。これが、フランスにおける日本語教育の始まりで、以後ここが日本語教育の中心となる。

フランスにおける最初の日本語教育は、日本に行ったこともなく、独学で

勉強をしたロニーが始めることになったのであるが、彼の研究や教科書編纂、授業を大いに助けたのが、遣欧使節団員の福沢諭吉であった。諭吉の滞仏中、2人は頻りに会い親交を深め、ロニーは諭吉から日本語・日本事情を学び、その代わりにフランス語や西洋事情・技術を諭吉に教え、それは後の諭吉の著「西洋事情」や「学問のすすめ」のよい材料となった。この二人の交流は、フランスの日本語教育の発展と日本の文明開化に多大なる影響を及ぼした。

2. ロニーの日本語教育

まずロニーは、日本語講座開講にあたって日本語をアピールするため、日本語学習の効用について次のように言っている（注1）。「日本語の勉強はヨーロッパの知的好奇心の対象である。文化や芸術などの諸分野に近づくための鍵であるばかりでなく、アジアの新興国日本との外交、貿易面での実用的手段である。また学習面では、仏教の研究に役立ち、日本独自の文学作品の解説、日本や民族の歴史、伝統産業に関する知識の獲得などに役に立つ」。彼は、これに従って授業のためのカリキュラム「日本語実用教程」を編み出した（注2）。以前は日本語の文献を読めさえすればよいと考え、文字中心の参考書を作っていたが、日本人に会い、生きた日本語を学び、書き言葉と実際に話されている話し言葉との隔たりの大きさを知り、初歩の段階においては、話し言葉の学習から始める方法が適切と考え直した。つまり、全課程を初級・中級・上級、3系列、3年分に分け、1年目を話し言葉、2年目を書き言葉、3年目を、前期は書き言葉と文学、後期は書簡文、外交・商業文、高等文学とした。その他に3年間通して教えられたのが口頭での翻訳練習、書道、日本事情や地理・歴史などである。このように、ロニーは1人でカリキュラムを立て、それにあった教科書・参考書・辞書を作り（資料5）、そして教鞭をとった。ロニーの果たした業績は絶賛すべきものである。

こうしてロニーによって日本語教育が始まり、ロニーの教え子が育ち、東洋語学校以外にソルボンヌ大学やリオン商工会議所などでも日本語講座が開かれ、少しずつフランスに日本語が広まって行った。

3. 第2次日本語ブーム

第2次大戦勃発と共に日本語教育も下火となったが、戦後15年を経過した1960年代の初めから、日本映画や文学が紹介されるようになり、再び日本語ブームを巻き起こし、静まっていた日本語熱が盛り返されてきた。1968年「大学基本法」によりパリ大学が13の大学に分かれ、正式に日本語の修了証書が

取れるようになってからは、日本語科への登録者数が急増した。パリの一部の高校でも日本語を教え始め、パリ以外の大学では、1973年リオン大学に、地方大学としては初めての日本語科が開設された。これが第2次日本語ブームである。

4. 第3次日本語ブーム

1980年頃から日本経済が著しく発展し、日本の海外進出が活発化してきたため第3次日本語ブームが起り、1980、81年パリだけではなく地方の多くの大学やエリート養成機関グランドゼコールに日本語講座が開講された。84年頃からは日本円の国際的地位が上昇し、日本がさらに注目されるようになり、いくつかの大学には日本語学科が設立され、中学・高校を含め急激に多くの学校で日本語講座が開講された。

II. フランスにおける日本語教育の現状

このような状況の中、1993年10月から1年間、私はフランスの地方大学ではリオン大学と1、2位を争っていると言われているグルノーブル大学日本語学科で専任の外国人講師として日本語教育に従事した。この日本語学科の現状と93年度の最後に行なったアンケートを元に問題点を報告する。

1. グルノーブル

グルノーブルはスイスとイタリアに近いフランス南西部アルプス地方に位置する(資料1)。グルノーブルで日本語を教えている機関は、大学レベルでは、グルノーブル大学とグルノーブル国立理工科学学校、高校では、グレジボダン高校、民間では日仏友の会の4機関である。グルノーブル大学は専門によって3つに分かれており、私が着任した日本語科のある大学は文学部のあるグルノーブル・スタンダール第3大学である。日本語科は、文学部外国学科東洋語部門の中に入っている。

2. グルノーブル大学日本語科の歴史

この大学の日本語講座は1986年に開講され、以来、必須と選択科目として、また生涯教育として取ることができる。1990年からは国家資格ではないが、大学資格として2年間で日本語修了証書、4年間で日本語・日本文明修了証書を取得することができるディプロームコースができた。1992年からはロシア語に代わって日本語科に教授職ができ、国立科学研究所のフランス人日本

語専門家が教鞭を取るようになった。それがきっかけで、筆者が担当した年に、応用外国語学科（L E A）の中に日本語・英語と日本語・ドイツ語専門コースが他の大学に先駆けて創設された。L E AとはLangues étrangères appliquées の略で、2つの外国語とその他に経済やコンピューターが学べる実用的な学科である。フランスの大学のシステムは、資料2のように、順調に行けば2年間でD E U G (Diplôme d'étude universitaire générales appliquées) 大学一般課程、次の1年で学士、その後、修士、博士となっている。。しかし、L E Aの日本語・英語と日本語・ドイツ語コースはまだ2年までしかなく、その後の課程と日本語だけを専門とする学科（L C E日本語学科・資料2下）が望まれている。しかし、それは教師の問題に大いに関係する。

3. 教師の問題

教師は、大学の予算の関係上、定員教師は2名と決まっており、1991年からは国際交流基金の援助で、1人の日本人日本語教師枠ができた。しかし、日本から日本人を招くとしても問題がいくつか出てくる。まず、給料が安く、家庭を持つ教師は無理。次に採用条件だが、修士号以上の資格と日本語教授経験者、最後に、必ず必要なのがフランス語能力である。フランスの文部省では外国人教師に対しフランス語能力を義務づけており、学生も当然フランス語での説明を要求してくる。この条件に合う教師は少なく、フランス語が話せる日本人ということで、結局フランス語教師か現地の大学の博士課程に所属する日本人留学生となってしまう。失業率の増加が著しいフランスでは、外国人労働者を締め出そうとしており、面倒な手続きを省くためにも大学側は現地で採用する方を好み、授業内容よりも行政面を重視する大学の問題が浮き彫りにされている。

4. 学生と授業

学生の種類は、上で述べたように、2種類、L E Aとディプロームコースがあり、それぞれのコースについては、L E Aは、日本語・英語の講座のみが開講になり、開設初年度のため在籍者は1年生のみで、学生数は15人だった。このクラスは1年生と言っても他の学部にも登録している者、他の学部から移ってきた者、自国にはこのような学部がなかったから留学して来たという外国人も多かった。日本語学習も今までディプロームコースで日本語を学んでいた者や高校や通信教育・語学学校で学んでいた者が多く、15人中9人が既に日本語学習の経験があった。L E Aを選んだ動機も、もちろん日

本語を勉強したかったからという理由が1番に挙げられますが、いわゆる一般に言われるエキゾチズム的興味からではなく、今、世界で重要な言葉、英語と日本語が同時に学べ、就職にも大変有利だからという、実際的な理由からこの学科を選んだ学生が多い。授業内容は、言語学1時間半、日本語研究1時間半、日本語練習1時間半、オーラル1時間、ラボ1時間、文明1時間半と計週8時間授業があり(資料3)、教科書は国際交流基金の「日本語初歩」とプリントを使用した。

ディプロームコースについては、学生数は1年105人、2年28人、3年9人、4年3人である。授業内容は、ディプローム2年コースは日本語研究・日本語練習・日本文明の授業がそれぞれ週に1回1時間半、計4時間半あり、4年コースは、1、2年は2年コースと合同の日本語研究と日本語練習、3、4年は日本語学・文学・文明の授業が週に2回1時間半、計3時間ある(資料4)。オーラルの練習は、学生数と教員数とが釣り合わず満足する状態ではない。教科書は、1年生は国際交流基金の「日本語初歩」、2年は前年から使用しているこの大学の専任教師が作成した「日本語を話しましょう」、3、4年は、教師が毎回作成したプリントを使用した。この課程で学ぶ学生の専攻や学年はまちまちで、また、生涯教育として、教師、研究者、主婦など様々な職業を持った人が学んでいる。

5. アンケート

今回実施したアンケートは、まず『日本や日本語に関する個人的興味や日本語能力について』LEAの学生に32問、ディプロームの学生に30問、次に、『今まで使ってきた言語について』、『来日経験について』、『現在までの日本語学習について』、『グルノーブル大学での日本語学習について』、『グルノーブル大学の日本語の授業について』、『フランスの日本語教育について』、の6項目、32問計62問~64問の質問を設けた(資料6)。学年の終わりということもあり、学生数が減少し、また自宅での作業としたので、全員から回収できたわけではなく、LEA15人、1年21人、2年11人、3年9人の回答が得られた。それらの統計を取り、分析した結果、いくつかの点についてLEAとディプロームコース、また学年によって異なる結果が出た。今回はその主な点だけを取り上げ考えていき、アンケートの詳細な結果報告は次回に回すことにする。

まず、1の①の『日本語学習の動機』であるが、これは自由解答であったにもかかわらず、3種類に大別することができた。すなわち、「未知なる国日本・日本文化への興味」、「西洋語とは違う珍しい言語への好奇心」、「

仕事で使用、就職に有利」の3つのタイプである(表1)。LEAとディプロームの3年生は、「仕事の道具として使うための道具的動機」が強く、その他の学年は、「言語への好奇からの動機」が強かったようである。また、もし日本への興味と言語への好奇心の2つを合わせて、エキゾチズムの興味とし、職業による道具的動機との比率を見ても、LEAは前者が48%、後者が52%となり、かなり実際の動機を持っていることになる。これはこのコース特有のものだと思われる。

次に、Iの2の『日本について最も興味のある点』についても、様々な答えが出たが、大まかに5つに分けると、「日本人(風習、生活様式、考え方)」、「日本語(言語、言葉、表記)」、「日本文化・文明・歴史」、「現代日本(社会、経済、政治)」、「日本の美しさ(景色、建築)」となり(表2)、全体的に見て「日本人」と「日本文化」の答えが多いが、ここでもLEAだけが「日本人」が最も多く、他は「文化」が1番多い。この結果の理由は、Iの22の『日本へ行く目的や期間』や、23の『将来希望する職業』の答えから推察できる。LEAは勉強か仕事の研修で1年以上日本に住み、将来は通訳か日本の企業に就職しようと考えている人がほとんどであるが、ディプロームコースの学生は、観光で短期間日本に行くことを望んでいる。つまり、LEAは日本で暮らし、日本人と一緒に生活や仕事をするために、日本人そのものを知りたいがっているようであるが、ディプロームコースの学生は、神秘的な日本の伝統文化に一番興味を持っているようである。

LEAとディプロームの意見の相違は、Iの3の『日本の文化、言語、文学、経済、政治、歴史、料理の中でどれに興味があるか』やIの8の『日本語学習で興味深い点』においても見られる。3では、LEAは多いものから、「言語、文化、経済」の順になり、ディプロームコースは「文化、言語、歴史」の順になった(表3)。仕事に必要な日本語自体に興味を持つLEAと、日本語は憧れの日本文化や歴史を知る手段とするディプロームコースの学生との考え方の違いの表れであろう。LEAが3番目に経済を選んでいるのも、経済大国日本の経済を学び、日本人と仕事がしたい希望を持っていることを示す。8では、回答は6種類、「会話、文化、表記、行動、文法、言語レベル」に分けられ(表4)、LEAは、実際の「会話」の学習に興味を持ち、ディプロームコースの学生は、「表記」、特に漢字に興味を持っている。

しかしVの3の『読む、書く、聞く、話すの四つの技能のうちどれを中心に勉強したいか』という質問には、1年生は「読み、書き」で、それ以外は「話す、聞く」である(表5)。これは、1年は、日本語を始めたところで、珍しい日本語の文字を見たり読んだりするのが楽しいようである。それ以外

の学年は、文法もかなり習い、語彙も少しずつ増えてきたので、今度は実際にそれらを使って話してみたいと考えているのであろう。

さらに注目すべき点は、Vの①の『文字、会話、日本事情、文法、読解、聴解、作文、語彙、書道の中で、どの授業を特に受けたいか』という質問では、表記ではなく、文字と書いたためにほとんどの人が「会話」ではなく、「文字」を選んでいいる。また次に多いのが、会話と並んで「書道」である。これは、多くの学生が漢字が難しく習得不可能と訴えており、日本の文字が日本語学習の障害になっている反面、漢字の美しさや1つ1つに起源や意味があることに大変興味を持ち、詳しく勉強したい、文字だけの授業が欲しいと願っている。また、教科書の印刷された活字ではわかりにくい、漢字の止めや跳ね、書き順を書道で勉強したいと考えている。このような理由から会話ではなく文字を選んだのであろう。フランスでは、2、3ヵ月に1回パリ大学で日本語教育学会が行なわれているが、その都度1番問題になるのが文字教育についてであった。おそらくこの文字への異常なまでの関心はフランス人独特の感覚から来ているものではないかと思われる。

最後に、IVで『フランスにおける日本語教育』について意見を求めると、既に100以上の中・高・大学で日本語が教えられているにもかかわらず、多くの学生がその存在をあまり知らないと言っている。これがフランスの情報の悪さである。教材については、フランス語で書かれた教科書や参考書が数少なく、辞書もない。良いものは全て英語話者向けに作られたものばかりである。しかし、これらを手に入れるのにはパリまで行かなければならない。

このようにパリとは違い、情報がほとんど入らない地方都市での日本語教育はかなり困難を伴う。しかし、筆者は、折角興味を持って登録した日本語学習を継続し、生きた日本語を学んでほしいと思い、多くの努力を払った。AV機器や絵パネルなどの道具を使用しながら会話の授業を行ったり、媒介語を避けて、ロールプレイやシミュレーションを通して学生とのコミュニケーションを図ったり、時には、日本人留学生を交えて実際に会話する練習を行なった。こうしたやり方は、学生にとって初めての経験で最初は戸惑いを見せていたが、次第に慣れ、かなり効果が上がったように思われる。しかし残念なことに、このやり方は研究者タイプのフランス人日本語教授には歓迎されなかった。つまり、大学は小学校と異なり、教師が一方的に講義をすればよいという考えである。フランスの語学教育法は、一般的に遅れており（外国人向けフランス語教授法は進んでいるが）、フランス語を使っての講義形式で、受け身の授業が多い。このような状態では、フランスの日本語教育自体発展せず、学生数の減少は免れないし、学生が目指している日本語能

力を持って国際社会にはばたくことは到底望めない。

IV. おわりに

最後に、フランスで最初の日本語教師となったロニーを思い出してみたい。彼は、既に、日本語学習は日本との外交、伝統文化、歴史、文学、産業の理解に必要であると主張しており、日本事情や経済、翻訳、書道などの授業も行なっていた。そして、130年経った今も人々はそれらを動機として日本語を学び、遠い日本に憧れ、日本を深く理解しようと真剣に努力している。しかし、時代は変わっても学生達は日本人とあまり話す機会もなく書物も手に入れることは難しい。地方都市の日本語教育はロニーの時代と状態はあまり変わっていないように感じられた。

今後のフランスの日本語教育の発展のためには、まず、日本語科を持つ大学側の理解、そして、フランス人向け日本語教授法と教材の開発、フランス語能力を持つ日本人の日本語教師の養成、さらに、日本語教育を専門とする日本の教師と現地の教師との協力が必要である。また、研究者としては優秀であるが、語学教育法に関して理解の乏しいフランス人日本語教師はもっと視野を広げ、日本の日本語教育を研究し、取り入れることが求められる。そうすることによって、130年以上の歴史を持つフランスの日本語教育が新しく生まれ変わり、日本語学習を通じて、美的感覚や精神風土に共通点の多いフランスと日本の交流がますます深まるであろう。

注

- (1) Léon de Rosny (1863) Discours prononcé à l'ouverture du cours de japonais, Paris: Maisonneuve et Cie
- (2) Léon de Rosny (1872) Premières notions de langue japonaise, Paris : Maisonneuve et Cie

主な参考文献

- 飯田鼎(1988)「福沢諭吉の西欧体験」『日本学』11号 名著刊行会
- 石垣貴千代(1985)「フランスの日本語教育」『日本語教育』57号
- 石田敏子(1973)「私の見たアメリカの日本語教育とフランスの日本語教育」
『日本語教育』19号
- 伊勢田涼子他(1991)「韓国における高校の日本語教師の背景と直面している
問題点」『日本語教育』74号
- 大島真木(1991)「西欧諸国の日本語教育」『講座日本語と日本語教育15』
明治書院
- J・J・オリガス(1991)「フランスにおける日本語教育概観」『講座日本語と日
本語教育16』 明治書院
- 北山晴一(1984)「パリ東洋語学校日本学科の憂鬱」『中央公論』 中央公論
社
- 許 卿姫(1991)「日本語学習に関する韓国大学生の意識調査研究」『日本語
教育』74号
- 熊沢精次(1986)「フランスの日本語教育史」『日本語教育』60号
- 倉八順子(1992)「日本語学習者の動機に関する調査」『日本語教育』77号
- 慶応義塾(1962)『福沢諭吉全集』第19巻 岩波書店
- 国際交流基金編(1987)『ヨーロッパにおける日本研究』 国際交流基金
—————(1992)『海外の日本語教育の現状』 国際交流基金
- 日本語教育学会編(1991)『日本語教育機関におけるコース・デザイン』 凡
人社
- 仁科喜久子他(1991)「理工科系大学における外国人留学生の日本語能力に関
する調査分析」『日本語教育』75号
- 北条淳子(1988)「変わりつつあるフランスの大学の日本語教育」『日本語教
育』66号 日本語教育学会
- 細川英雄(1987)『パリの日本語教室から』 三省堂
- H・マエス(1974)「海外における日本語の研究と日本語教育」『国語年鑑』
国立国語研究所
- 松原秀一 1981)「レオン・ド・ロニ(上)」『月刊言語』1 大修館書店
—————(1981)「レオン・ド・ロニ(下)」『月刊言語』10 大修館書店
- 松本信廣(1959)「フランスの民俗学と福沢諭吉」『福沢諭吉全集』第7巻
付録 岩波書店
- 宮原 信(1986)「パリの日本語学習—ラングソーを中心に—」『言語生活』
9号

(資料1) フランス、グルノーブル



(資料2) フランスの大学制度

8	第3期課程	博士	
7			
6			
5	第2期課程	DEA	→ Diplôme d'études approfondies (専門研究課程修了証書)
4		修士	
3		学士	
2	第1期課程	DEUG 2年	→ Diplôme d'études universitaires générale (大学一般課程修了証書)
1		DEUG 1年	

大学で日本語を専門に学べる学科

LEA - Langues Etrangères Appliquées (応用外国語学科)

LCE - Lettres et Civilisations Etrangères (外国文学・文明学科)

(資料3) L E A の授業

UV... Structures linguistiques	M. André WLODARCZYK CM mercredi 10h30 à 11h30 (salle F306)
UV... Étude de la langue	Mme Tomoko HIGASHI TD lundi 9h à 10h30 (salle C2)
UV... Pratique de la langue	Mlle Satoko SHIRAI TP jeudi 9h à 10h30 (salle F8)
UV... Écriture	Mlle Satoko SHIRAI TD mardi 12h30 à 13h30 (salle G6)
UV... Exercices oraux	Mlle Satoko SHIRAI TP mardi 13h30 à 14h30 (salle G6)
UV... Laboratoire	Mlle Satoko SHIRAI TP mardi 16h30 à 17h30 (K06)
UV... Civilisation - société et mentalité	Mme Tomoko HIGASHI CM mardi 10h à 11h30 (salle F303)

(資料4) ディプロームコースの授業

1^{ère} Année - UV671 (JAP-121/221) INITIATION AU JAPONAIS I

Étude de la langue	Mme Tomoko HIGASHI TD mardi 12h30 à 14h (salle F8)
Pratique de la langue	Mlle Satoko SHIRAI TP groupe A: mercredi 12h à 13h30 (F 303) groupe B: mercredi 17h30 à 19h (salle F9)

2^e Année - UV672 (JAP-321/421) INITIATION AU JAPONAIS II

Étude de la langue	Mme Tomoko HIGASHI TD lundi 11h à 12h30 (salle A1)
Pratique de la langue	Mlle Satoko SHIRAI TP groupe A: mardi 17h30 à 19h (salle F9) groupe B: jeudi 11h30 à 13h (salle A3)

3^e Année - UV673 (JAP-120/220) LANGUE, LIT. ET CIVILISATION I

Civilisation par les textes - Explication	M. André WLODARCZYK CM mardi 16h30 à 18h (salle B322)
Civilisation par les textes - Lecture	Mlle Satoko SHIRAI TD jeudi 13h à 14h30 (salle G6)

4^e Année - UV674 (JAP-320/420) LANGUE, LIT. ET CIVILISATION II

Techniques de traduction	M. André WLODARCZYK CM mardi 18h à 19h30 (salle D2)
Langue de communication	Mme Tomoko HIGASHI TD lundi 12h30 à 14h (salle G5)

1^{ère} Année - UV675 (JAP-141/241) CIVILISATION JAPONAISE I

Société et mentalité japonaises	Mme Tomoko HIGASHI CM mardi 10h à 11h30 (salle F303)
---------------------------------	---

2^e Année - UV676 (JAP-341/441) CIVILISATION JAPONAISE II

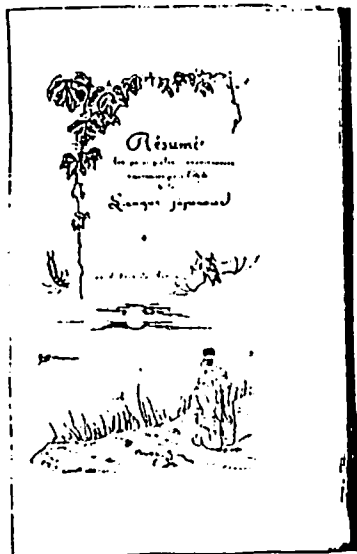
Sémiologie de la culture japonaise	M. André WLODARCZYK CM mercredi 13h30 à 15h (salle xx)
------------------------------------	---

(RHS) 数々のレオン・ド・ロニーの著書

「東洋日本語学校」で使用していた教科書
 「日本語考(第2版)」1865年、パリ (第1版-1866年)



ロニー (当時17歳) 著
 フランス最初の日本語文法書
 「日本語学習に必要な基礎知識の要約」
 1854年、パリ



東洋前代文法
 今村編輯
 明治七年十一月石印
 全

ロニーの著書

(資料6) アンケートの質問項目

I. 個人的興味、日本語能力等について

(L E Aのみ)

1. なぜL E Aを選びましたか。
2. 他の学部にも登録していますか。／登録したことがありますか。

(L E A・ディプロム共通)

1. 日本語を勉強しようと思った動機
2. 日本について最も興味のある点。
3. 日本について次の中で何に興味がありますか。(文化、語学、文学、経済、政治、歴史、料理、その他)
4. 日本について知っていること。
5. 日本語についてどう思いますか。
6. 日本語で何が一番難しいですか。
7. 日本語で何が一番やさしいですか。
8. 日本語学習で何が一番興味深いですか。
9. 文法の中で一番難しいと思う点、一番やさしいと思う点。
10. 日本語を始める前、日本語をどのように思っていましたか。
11. 日本語を勉強してみてどう思いますか。(思ったとおり難しい、思ったとおりやさしい、思ったより難しい、思ったよりやさしい)
12. 日本語の学習はうまく行っていますか。(とてもうまく行っている、うまく行っている、まあうまく行っている、あまりうまく行っていない、うまく行っていない)
13. 漢字を勉強する時何が一番難しいと思いますか。(漢字の意味、漢字の読み、漢字の書き方、その他)
14. 日本語表記の中で何が一番難しいと思いますか。(ひらがなの表記、カタカナの表記、漢字の表記、漢字とひらがなまじりの表記、外来語のカタカナ表記)
15. 日本語の発音についてどう思いますか。(やさしい、まあまあやさしい、難しい、とてもむずかしい)
16. ひらがなはどのくらい読めますか。(全部読める、かなり読める、全然読めない)
17. ひらがなはどのくらい書けますか。(全部書ける、かなり書ける、全然かけない)
18. かたかなはどのくらい読めますか。(全部読める、かなり読める、全然読めない)
19. かたかなはどのくらい書けますか。(全部書ける、かなり書ける、全然かけない)
20. 漢字はどのくらい読めますか。(新聞にでてくる漢字はだいたい読める、新聞にでてくる漢字は半分くらい読める、やさしい漢字はだいたい読める、少し読める、全然読めない)
21. 漢字はどのくらい書けますか。(たくさん書ける、かなり書ける、少し書ける、全然書けない)
22. 将来日本へ行きたいですか。(1. いつ頃、2. 目的、3. どれくらい)
23. 将来どんな仕事をしたいですか。
24. 将来日本語を使った仕事をしたいですか。例えば。
25. 就職などで日本語の資格は役に立つと思いますか。
26. 最近の新聞・雑誌・テレビ等で日本に関することで印象に残った話は何ですか。
27. 日本人の友達がありますか。何人くらいですか。(0、1~5、6~10、10人以上)
28. 日本人とフランス語と日本語の交換授業をしていますか。

29. 日本人の文通友達がいますか。何人、何語で。
30. 来年も日本語の勉強を続けたいと思っていますか。
- II. 今までに使ってきた言語について
1. 現在までの居住地と使用言語について書いて下さい。
 2. 今までに学習したことのある言語とそのレベルを書いて下さい。
- III. 来日経験について
1. 日本へ行ったことがありますか。
 2. 何回。 3. いつ、どのくらい。 4. どこへ行きましたか。
 5. 目的は何ですか。
- IV. 現在までの日本語学習について
1. いつからいつまで習いましたか。
 2. どの国のどの都市で習いましたか。
 3. どのような機関で習いましたか。(中学、高校、大学、語学学校、通信教育、民間施設、個人教授、その他)
 4. 教授方法・形態
 1. どのような形で習いましたか。(先生と一対一、クラス、独学)
 2. 先生は。(日本人、自国人、日本人と自国人、その他)
 3. 先生は何語を使って教えましたか。
 4. どのような教材を使いましたか。(プリント、教科書、テレビ、ラジオ、テープレコーダー、L. L、ビデオ、その他)
 5. 週に何回、何時間習いましたか。
- V. グルノーブル大学での日本語学習について
1. どのような授業を受けたいですか。(文字、会話、日本事情、文法、読解、聴解、作文、語彙、書道、その他)
 2. その他にどのような授業があればいいと思いますか。
 3. 「読む」「書く」「聞く」「話す」の四つの技能のうち、どれを中心に学習したいですか。
 4. 予習・復習のためにどれくらい勉強していますか。
(毎日一生懸命勉強している、毎日少しずつ勉強している、週に2、3回勉強している、試験の前だけ勉強している、全然勉強しない)
 5. 日本語の勉強の予習・復習のために、どのようなものを使っていますか。
 6. 上で答えたものの名前を教えてください。
 7. 辞書を使っていますか。辞書名。
 8. 授業以外にどこかで、または誰かに日本語を習っていますか。あればどこ、誰にですか。
 9. 日本人と日本語で話す機会がくらいありますか。
 10. その日本人は何をしている人ですか。
- VI. グルノーブル大学の日本語の授業について
1. 良い点 2. 悪い点 3. 使っている教科書の感想 4. 今後、日本語学科に希望、期待する点
- . フランスの日本語教育について
1. フランスにおける日本語教育の現状(高校・大学等)についての意見
 2. 教科書、参考書、辞書などについての意見

アンケート結果

(表1) I. 1. 日本語学習の動機 (%)

	日本	言語	職業
LEA	16	34	50
1年	30	43	27
2年	20	42	38
3年	27	33	40

(表2) I. 2. 日本について興味ある点-自由回答 (%)

	人・風情	言語	文化	経済社会	歴史・風
LEA	35	19	31	15	0
1年	32	15	44	9	0
2年	16.5	6	31.5	6	13
3年	20	13	41	13	13

(表3) I. 3. 日本について興味のある点-選択・複数回答 (%)

	文化	言語	文学	経済	政治	歴史	料理	その他
LEA	27	40	4	11	1	8	8	1 (風情など)
1年	34	27	6	9	2	18	2	2 (映画など)
2年	33	18	4	6	0	21	6	12 (風景・マンガなど)
3年	41	18	0	9	0	5	18	9 (音楽・風景など)

(表4) I. 8. 日本語学習で興味深い点 (%)

	会話	文化	表記	行動	文法	語彙レベル
LEA	32	26	21	10.5	0	10.5
1年	20	13	28	13	22	4
2年	14	7.5	43	14	14	7.5
3年	15	8	25	8	22	22

(表5) V. 3. どれを中心に学習したいか

		読む	書く	聞く	話す
LEA	1位	15	23	15	47
	2位	23	0	23	54
1年	1位	21	42	16	21
	2位	47	16	16	21
2年	1位	0	25	25	50
	2位	25	25	50	0
3年	1位	20	20	20	40
	2位	40	0	0	60

(表6) V. 1. どの授業を特に受けたいか (全合計) (%)

	文字	会話	日本語	文法	読解	聴解	作文	語彙	書道	その他
1位	46	16	3	11	3	0	0	5	16	0